

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																					
ハーベスト医療福祉専門学校		平成20年3月31日		中本敏郎		〒670-0962 兵庫県姫路市南駅前町91-6 (電話) 079-224-1777																					
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																					
学校法人摺河学園		昭和23年3月31日		摺河祐彦		〒670-0964 兵庫県姫路市豊沢町83 (電話) 079-224-1711																					
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	理学療法学科(夜間部)		平成23年文部科学省告示 第166号	-																						
学科の目的	医療に携わる人間として必要な教養とコミュニケーション能力を体得して、常に自分で考えながら行動し、成長できる人格形成を促す。また、理学療法士として必要とされる知識・技術・豊かな心を養い、医療分野をはじめとする地域社会に広く貢献できる人材を育成する。																										
認定年月日	平成26年3月31日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3年	夜間	3,105時間	1,335時間	510時間	1,260時間	-	-																				
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																					
90		30人	0人	6人	9人	15人																					
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目所定の講義を2/3以上出席しており、成績が60点以上の者を単位認定している。																						
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:なし ■冬季:1週間 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	①進級条件としては、当該年度のすべての科目を修得すること。 ②卒業の条件はすべての科目を修得すること。																						
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 保護者と面談及び生活指導			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動への参加  ■サークル活動: 有																						
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(平成29年度卒業生) 明石医療センター等  ■就職指導内容 面接による指導を中心に行う  ■卒業生数 : 19 人 ■就職希望者数 : 16 人 ■就職者数 : 16 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 84 % ■その他 :  (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)			主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士</td> <td>②</td> <td>19人</td> <td>16人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)  ■自由記述欄			資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士	②	19人	16人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
理学療法士	②	19人	16人																								
中途退学の現状	■中途退学者 7 名 ■中退率 14 % 平成28年4月1日時点において、在学者50名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者43名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 思い描いている職業ではなかった。  ■中退防止・中退者支援のための取組 将来の自己の理学療法士像の形成。																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: (有・無) 無 奨学金: ①特待生入学試験合格者(初年度)②年度末に審査して、特に優秀な者③年度末に審査して、優秀な者 授業料等減免: ①兄弟姉妹が在籍中に、後から入学した者②大学等を卒業後、本校の理学療法学科に再進学した者(初年度) ③所定の国家資格を有し、本校の理学療法学科に入学した者(初年度) ■専門実践教育訓練給付: (給付対象・非給付対象) 15名																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: (有・無) 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科のホームページURL	http://www.harvest-school.com/																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。



Blank header bar

Blank text area


Blank header bar

Blank text area

Blank text area

Blank text area

Blank header bar

Blank text area





## 授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科(夜間部)) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	心理学に関わるできるだけ幅広い領域の特に重要と思われる事項について理解する。	1前	30	2	○			○			○	
○			生命倫理学	生命倫理にかかわる諸問題を広く浅く取り扱う。	1前	30	2	○			○				○
○			研究法概論	医療分野における研究の必要性を学習した上で、基礎研究および臨床研究に必要な、研究モデルの作成・データの解釈について学んでいく。	2後	30	2	○			○			○	
○			情報処理科 学	PCによるレポート作成に必要なソフトウェアの使い方を習得する。	1前	30	2	○			○			○	
○			健康科学	健康医療福祉にかかわる専門職として、自分自身の健康に関心を持ち、自ら適切な健康管理を行うための基礎知識の習得を目指す。	1前	30	2	○			○			○	
○			統計学	理学療法の臨床効果ならびに科学的実践に結びつけるための論文の読解力を培う。統計学の基本、基本的統計から統計の応用的活用について学習する。	2後	30	2	○			○				○
○			医学英語	医療・福祉施設では、医学英語が使用される事が多い。将来、理学療法士として、英語文献の読解、国際社会での研究発表では必須である。	1後	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ	人体の基礎構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1前	30	2	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ	人体の基本構造を学び、理学療法士として必要な臨床医学との関連性について知識を深める。	1後	30	2	○			○			○	
○			解剖学実習	解剖学Ⅰで学んだ人体の基本構造を復習し、より理解を深める。	2前	45	1			○	○			○	
○			生理学Ⅰ	理学療法士に必要な身体生理を学ぶとともに、臨床の場に即した状況の紹介を行いながら、その内容について説明する。	1前	30	2	○			○			○	
○			生理学Ⅱ	理学療法士に必要な身体生理を学ぶとともに、臨床の場に即した状況の紹介を行いながら、その内容について説明する。	1後	30	2	○			○				○
○			生理学実習	生理学は人の身体の働きを学ぶ学問である。生理学実習では、生理学で学んだ知識に関して、実体験を通じて理解を深める事を目的とする。	1後	45	1			○	○			○	
○			運動学総論	運動学の知識は理学療法士の基盤である。運動学の基礎を理解し、力学的観点から関節運動や動作を考え、客観的に説明できる能力を身につける。	1前	30	2	○			○			○	
○			運動学各論	各関節の運動の特徴を知る。正常動作の基本を学ぶ。	1後	30	2	○			○			○	

○		運動学実習	1年時に学習した基礎を活かして、実際に運動・動作の分析を行う。機器を使用して、筋活動などを視覚的に確認し、今後の臨床に活かす。	2前	45	1				○	○		○		
○		機能解剖学	解剖学の知識をもとに、実際に体表から主たる骨、筋、神経、血管の触知を行えるようになることを目的とする。	1後	45	2	○	△			○		○		
○		人間発達学	人間の胎児期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。	1前	30	2	○				○			○	
○		臨床心理学	様々な要因で苦しんでいる人（含む患者さん）の話を聴くこと、気持ちを察すること、行動や態度の裏側にあるものを推定する重要性を理解する。	1後	30	2	○				○			○	
○		病理学	医療従事者を目指す上で、必要な様々な疾病の原因及び、その病態について理解を深める。	2前	30	2	○				○				○
○		障害学	本講義では、障害のとらえ方、評価の行い方、問題点の抽出の仕方など、一連の理学療法の流れに沿って障害を理解するとともにその方法についても理解を深めることを目的とする	2前	30	2	○				○			○	
○		整形外科学	整形外科についての基礎を理解する。また、各々の疾患における理学療法との関わりについて、理解することを目的とする。	1後	30	2	○				○			○	
○		内科学	実際の現場では様々な内科的疾患を持った方に対して理学療法を行うことが多い。十分な対応ができるよう、内科の知識を習得することを目的とする。	1前	30	2	○				○				○
○		小児科学	小児科学とは何かを理解する。また、小児科領域における理学療法の役割を理解する。	1後	30	2	○				○				○
○		神経内科学	当講義は、神経内科学の基本的な知識とその考えを理解し、個々の神経疾患の病態・診断・治療を理解することを目的としている。	1後	30	2	○				○			○	
○		精神医学	精神医学への興味、精神障害者への理解を深めることを目的とする。	1前	30	2	○				○				○
○		リハビリテーション医学	リハビリテーション医学について、その概略を解説し、さらにリハビリテーションの対象となる各疾病の、概念や検査、治療方法などについて、基本的事項を習得する。	1前	30	2	○				○			○	
○		理学療法概論	本講義では、理学療法の基本的な考え、専門性、役割を理解することを目的とする。理学療法の今後と展開についても説明を行う。	1前	30	2	○				○			○	
○		理学療法演習	理学療法・理学療法士とは何かを理解する。現在、学内で学んでいることが、臨床にどう生かされていくのかを学ぶ。また、臨床の理学療法・理学療法士の役割を理解する。	2後	30	1			○		○				○
○		症例研究	実習地で経験させていただいた症例を発表、学生間で検討することにより、より多くの情報を共有し知見を広げることを目的とする。	3前後	90	3			○		○			○	
○		理学療法研究法	基本的態度と能力を養うことを目的に、担当教員の指導のもと、学生毎にテーマを定めて研究活動を行い、口述発表を行う。	3後	90	3			○		○			○	



○		理学療法評価学Ⅰ	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいとする。	1後	60	3	○	△	○	○	○	○
○		理学療法評価学Ⅱ	本科目では理学療法評価の目的や意義、方法について基本的知識を学ぶと共に、それらを臨床実践に結び付けることをねらいとする。	2前	60	3	○	△	○	○	○	○
○		疾患別動作分析学	総合的な知識を用い、姿勢・動作の観察から統合と解釈をVTR等を用いて学ぶ。	2後	45	2	○	△	○		○	
○		日常生活活動Ⅰ	一人の人間が独立して生活するために行う、基本的な身体動作を理解する。	2前	30	2	○		○	○		
○		日常生活活動Ⅱ	基本的なADL援助技術を身に付け、障害者の生活の多様性に柔軟に対処できるようになる。	2後	30	1		○	○	○		
○		運動療法	本講義では、運動療法の基礎について学び、関節可動域運動や筋力増強運動等の基本的な技術の体得を図ることを目的としている。	2前	60	3	○	△	○	○		
○		物理療法	物理療法の定義、目的を理解する。物理刺激が生体に及ぼす生理学的作用を理解する	2後	45	2	○	△	○	○		
○		義肢装具学	リハビリテーションにおける義肢装具の目的と役割を理解する。	2後	60	3	○	△	○		○	
○		運動器疾患理学療法	運動器の障害と理学療法を学習する。運動器疾患のリハビリテーションは理学療法分野において中心的な役割を担っている。	2前	30	1		○	○	○		
○		スポーツ疾患理学療法	スポーツ疾患における理学療法、アスレティックリハビリテーションを学習する。また各スポーツにおける競技特性を学習し、スポーツ傷害の原因を考える。	2後	30	1		○	○	○		
○		脳血管障害理学療法Ⅰ	この脳血管障害という疾患は理学療法の現場で最も相対する機会の多いこともあり、総合的な理解を目指す。	2前	30	1		○	○	○		
○		脳血管障害理学療法Ⅱ	脳血管障害の理学療法評価及び基本治療(理学療法)について学習する。	2後	30	1		○	○	○		
○		神経・筋障害理学療法	臨床場面で接する機会の多い、神経・筋の病態と理学療法について教授する。	2後	30	2	○		○	○		
○		発達障害理学療法	小児リハビリテーションの概要について理解を深めると同時に、理学療法を実施するための小児理学療法評価、正常発達を学習する。	2後	30	2	○		○		○	
○		内部疾患理学療法	内部疾患の理学療法の評価と治療について臨床現場をイメージできるように講義していく。	2後	30	2	○		○		○	
○		生活環境論	授業では、障害者を取りまく環境を十分に把握し、障害者の身体状況や精神的側面に配慮したよりよい環境整備の方法や関連する法的諸制度について教授する。	2前	30	2	○		○		○	
○		地域理学療法学	糖尿病に対する理学療法及び、理学療法士の役割を理解する事を目的とする	2前	30	2	○		○		○	
○		理学療法実習Ⅰ	実際の臨床の場の雰囲気を知るとともに、対象者とのコミュニケーションのとり方について体験する。	1前	45	1			○	○	○	○
○		理学療法実習Ⅱ	1年次において履修した医療面接ならびに検査・測定技術を、臨床実習指導者の指導の下で体験する。	1後	45	1			○	○	○	○

○		理学療法実習Ⅲ	理学療法現場の見学とカルテからの情報収集、検査・測定より得られたデータを学内に持ち帰り、対象者の障害像を構築し、対象者の問題点を把握することができる。	2前	45	1				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅰ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	2後	135	3				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅱ	これまでの実習経験や学内で得た知識や技術を元に、評価を実際に実施理解する。評価結果を元に、統合と解釈・問題点抽出を行い、治療プログラムを立案する。	3前	135	3				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅲ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3前	360	8				○	○	○	○
○		臨床実習Ⅳ	評価実習で学んだ評価を元に、ゴール設定や治療、そこからの再評価といった理学療法の流れを経験する。	3後	360	8				○	○	○	○
○		臨床理学療法演習Ⅰ	理学療法実習Ⅰの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1前	30	1				○	○	○	
○		臨床理学療法演習Ⅱ	理学療法実習Ⅱの実習後に、成果の確認として発表、実技練習、実技試験などを行う。これにより知識の復習と、自己の問題点を確認し先に役立てる。	1後	30	1				○	○	○	
○		臨床理学療法演習Ⅲ	学習してきた評価を実践し、問題点の抽出までの流れを理解する。	2前	30	1				○	○	○	
○		理学療法形成論Ⅰ	前期は、自己紹介および臨床に必要な面接の方法とレポートの書き方を理解する。後期は、評価技術の練習および解剖・生理学の予習を中心に行い、理解を深める。	1前後	30	2	○			○	○		
○		理学療法形成論Ⅱ	前期は1年時に学習した基礎医学の復習。後期は基礎医学や評価手技を元に、応用を行っていく。	2前後	30	2	○			○	○		
○		ホスピタリティデザイン学	学生・社会人としての礼儀作法を身につける。	1前	30	1				○	○	○	
○		コミュニケーション学	医療・福祉の現場で求められる“心の通い合う人間関係”を構築するためのノウハウやスキルを身につけることを目的とする。	1後	30	1				○	○	○	
合計				62科目	3,105単位時間( 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
すべての科目を修得すること		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。